Bibliophiles

ビブリオファイルズ　No.3(2020 年度)

新着図書案内・お知らせ　西宮東高校図書館

（ここで紹介するのは新しい本の一部です。）

『打ち方は、教えない。』　青木翔

2019 年、日本人女子ゴルフ選手として、42 年ぶり、史上二人目の海外メジャー優勝を果たした渋野日向子。「スマイルシンデレラ」と呼ばれ、一躍、人気者になりましたが、実は彼女は 2017 年のテストではプロになる合格ラインに大きく及ばず、プロになれていなかったのです。その年の秋からこの本の筆者の青木氏に出会い、彼のコーチにより、渋野はめきめきと実力をつけていったのです。

そんな青木氏のコーチング方法を解説したのが、この本。でもタイトル通り、「ゴルフの打ち方」は解説されていません。書いてあるのは・・は読んでのお楽しみです。

『嫌いな人がいる人へ　自分を知って生きやすくなるメントレ』古山 有則

人間関係や恋愛などで「どうもうまくいかない」とお悩みの人。どうしてもウマが合わないと嫌いな人がいる人。それって、そもそも自分のことが嫌いだからなんじゃないですか？メンタルトレーナーの筆者は、「自分がどんな状況・状態であっても価値がある。」と思うこと、つまり「自己肯定感」を持つことの大切さをこの本で教えてくれます。悩んだときにはページを繰ってみて下さい。

『THE MISSING PIECE Meets the BIG O』
『はぐれくん、おおきなマルにであう 』
シェル・シルヴァスタイン、
村上春樹（訳）

アメリカで４０年間も愛されている名作童話『ぼくを探しに』の続編の、原書（英語版）と昨年あらたに出た村上春樹の翻訳本の２冊を買いました。

前作『ぼくを探しに』が、大きなマルが失われた自分の「かけら」を探しに旅をするストーリーだったのに対して、今度は「かけら」の方が元の自分を探し求める、というお話。でも、結末は前作と全然違います・・・英語と日本語を読み比べて英語力 UP にもなりますよ！

『流浪の月』　　凪良 ゆう

「本屋大賞」って知ってますか？出版社や評論家ではなく、全国の本屋の店員さんが選ぶ賞で、今年の本屋大賞に輝いたのが、この小説なんです。

主人公の更紗（さらさ）は９歳の時、親と別れ、ふとしたことから見ず知らずの男子大学生の文（ふみ）の部屋で暮らすようになります。しかし、外出を始め全てを更紗の自由にさせてくれたのに、文は警察に逮捕されてしまいます・・**宮部みゆきの『きたきた捕物帖』**もどうぞ。

『古関裕而の昭和史
国民を背負った作曲家』　辻田真佐憲

野球好きなら阪神タイガースの応援歌『六甲おろし』とか高校野球の大会歌『栄冠は君に輝く』、映画なら怪獣映画『モスラ』の歌など、日本人なら誰でも知っている曲を数多く生んだ古関裕而。彼は今の NHK の朝ドラの主人公のモデルにもなっていて、注目度が高いのでこの本も入れてみました。

キーワードは「昭和」で、昭和の大衆文化や空気から、この作曲家の姿を浮き彫りにしています。これを読めば、朝ドラも倍楽しめる！？

『仁徳天皇陵と巨大古墳の謎』　水谷千秋

日本最大の古墳である仁徳天皇陵はじめ、昨年に世界遺産に認定された古墳群ですが、本書は世界遺産に未登録のものも含めて全８９基が紹介されています。（世界遺産は４９基のみ）また「なぜ古墳の向きはばらばらなのか」など、さまざまな古墳の「謎」も詳しく解説。写真やイメージ画像も豊富で、古墳入門にはぴったりですね。

『バウハウスってなあに？』
インゴルフ・ケルンほか

世界で初めて、近代的なデザインを教えた美術学校のバウハウス。ドイツ語で「建築の家」という意味ですが、建築にとどまらず色んなデザインを研究し、例えば「写真の自撮り」もバウハウスが起源でした。この本は、質問形式でバウハウスを解説してくれる楽しい絵本です。

日本史と世界史の学習漫画、全巻買い換えました！

歴史の学習漫画はそろえていたのですが、かなり古くなっていましたので、思い切って買い換えました。日本史は集英社で 2018 年、世界史は小学館で 2019 年の 11 月に出た新しいものです。

「今さら漫画で勉強なんて・・」と思うかも知れませんが、日本史は総合アドヴァイザーにカリスマ予備校講師の野島博之氏、世界史の方は高校世界史の本で有名な山川出版社が編集に協力しています。読んで楽しいばかりでなく、そうとうに「受験」を意識した作り込みです。一度お試しを。

『美術の物語』
エルンスト・H・ゴンブリッチ

若者を対象とした美術史の入門書の名著です。1950 年の刊行以来、３５カ国語に翻訳され、８百万部以上を売り上げた、「世界で一番売れた美術の本」になります。およそ２万年まえに描かれた「ラスコー洞窟の壁画」から現代美術までの大きな流れを、分かりやすく解説してくれます。

今号のひとこと

Women dream till they have no longer the strength to dream.
女は夢を見続ける、
夢見る力がなくなってしまうその時まで。
『カサンドラ』より
フローレンス・ナイチンゲール(1820-1910)

今年が生誕 200 年に当たるナイチンゲールですが、彼女の名前「フローレンス」とはイタリアの都市・フィレンツェの英語名。裕福な彼女の両親は 2 年間にも及ぶ新婚旅行中に（！）フィレンツェで彼女を産んだので、この名が付けられました。そんな「セレブのお嬢さん」だった彼女が、看護という仕事に目覚め、クリミア戦争には看護婦として従軍し、負傷した兵士たちを看護します。彼女の「夢見る力」は、すごかったのですね。